

平成21年度連携排砂時の宇奈月ダム下流域の水質調査（DO分析）結果について

参考資料 2

連携排砂及び連携通砂時の環境調査項目にある水質調査のDO分析については、平成17年度より分析誤差の低減のため、従来のウィンクラー-アジ化ナトリウム変法（滴定法）を主とした分析に加え、隔膜電極法（DOメーター）による分析を併用し、クロスチェックを行っている。

平成21年度連携排砂時の水質調査結果で、国土交通省担当分の4地点（宇奈月ダム直下、愛本、下黒部橋、黒薙）のDO分析値は、資料-2-②データ集4ページ～7ページにあるように、一時的に著しく低い値を示している箇所がある。

【要因】 排砂時の滴定法によるDOは分析までに時間がかかったため、DOが大きく消費された。
→排砂時の数値が異常値であるかどうかを確認するために相関で検証



採水状況（宇奈月ダム直下）

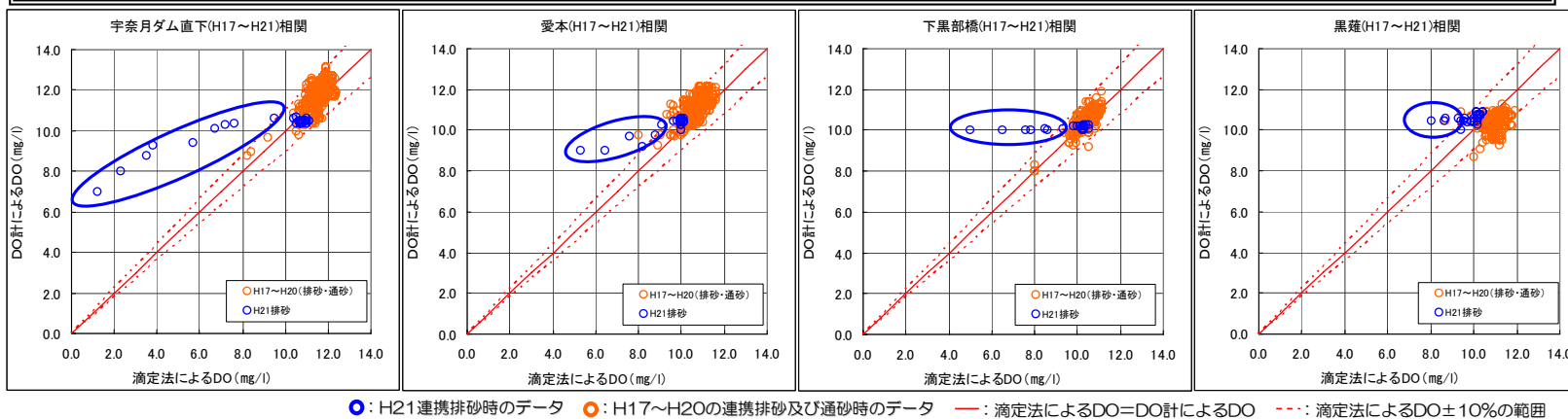


分析状況（滴定法：現地）

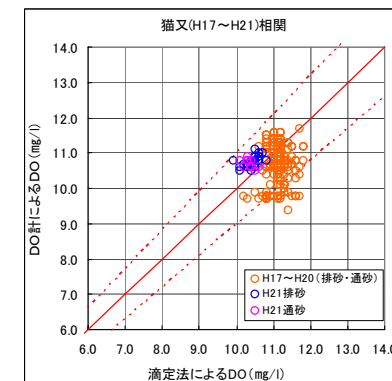


分析状況（DOメーター）

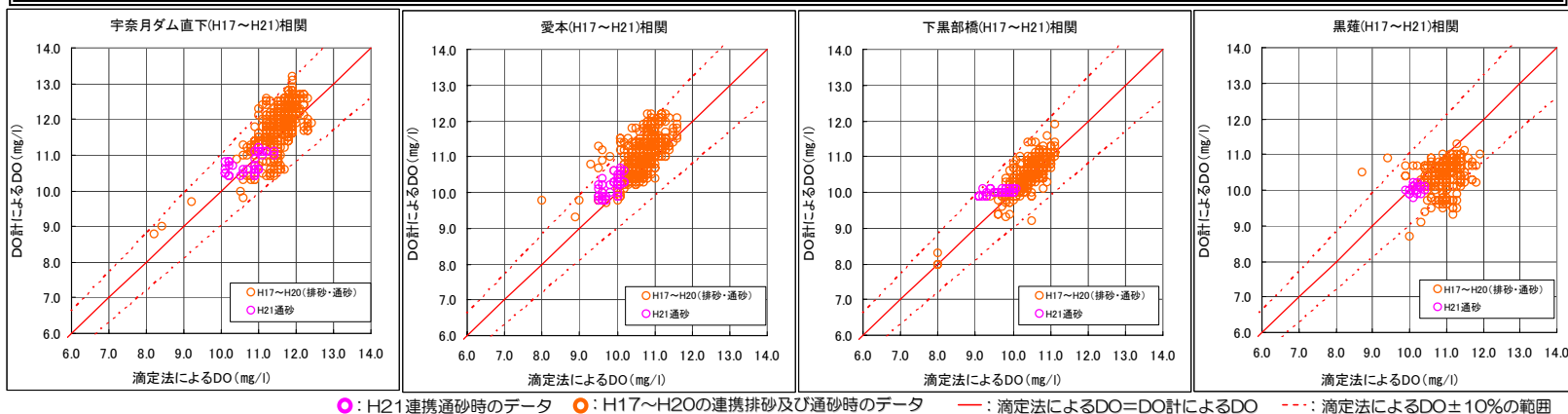
検証1 H21連携排砂時の滴定法値とDOメーター値の相関値が、概ね±10%の範囲を大きく外れた位置にある。



参考
猫又、出し平ダム直下地点では、概ね±10%の範囲におさまっている。



検証2 H17～H20の連携排砂・通砂時及びH21連携通砂時の滴定法値とDOメーター値の相関値は、概ね±10%の範囲におさまっている。



【検証1】 H21連携排砂時データの相関値は過年度調査結果と比較しても異常値である。

【検証2】 H21連携通砂時データの相関値は概ね±10%の範囲におさまる。→ DOメーター値にある程度の信頼性を確認

⇒ H21連携排砂時データにDOメーター値を採用